



じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

OYAOYA 通信



学びのホームグラウンド じんけん楽習塾

2 回目報告

5/30 子どもの貧困を考える～家計簿ワーク～

幸重忠孝さん【幸重社会福祉士事務所】

2 回目のじんけん楽習塾は子どもの貧困を考えました。貧困と聞くと、世界の子どもたちが飢餓に苦しむ姿や、戦後間もない飢えた日本の子どもたちの姿を思い浮かべるかもしれませんが。それは絶対的貧困で、今日本で 7 人にひとりと言われる貧困は相対的貧困です。日本全体の所得の中央値の半分に満たないケースを言います。



日本では施設や里親で育つ子どもが約 5 万、生活保護世帯で生活している子どもが約 20 万、そして相対的貧困家庭の子どもが約 300 万いるそうです。この相対的貧困にある子どもたちにはほとんどサポートがない状況で、目に見えない貧困層です。この層の高校生の子どもたちの声の紹介がありました。

高校生の声

● 電気代などを私のアルバイト代などで払っています。家のボイラーが修理できず、お湯が出ないので水のシャワーを浴びています。/ 生活するためには、私がアルバイトで稼がなければいけなくて、学習時間がうまくとれない。将来を考えると、私はどうしようもなく、いけない人間に思えて、死にたくなってくる。だけど、手をさしのべられると、ふりはらってしまう自分がいる。私は、こんな自分を好きになれないでいる。/ 正直あした日食べるご飯に困っている。自分が早く自立できたらとなんどもふさ



ぎこんだ。/●

高校生の言葉が流れるスライドに息がつまりそうでした。

家計簿ワーク

次はグループに分かれていよいよ家計簿ワークです。37 歳の夫婦と中学 1 年生の子どもがいる家庭で手取り 34 万と 17 万で家計簿をつけます。だいたい 34 万というのが平均値で、17 万はその半分相対的貧困家庭と言えます。

相対的貧困家庭の生活を家計から考えるワーク
ワークシート

◆ 37歳の夫婦と中学1年生の子ども1人の核家族
「1ヶ月にかかる生活費(食費・娯楽費を除く)を考えよう」

	一般家庭①	一般家庭②	相対的貧困家庭	困難ケース
住居	120,000	94,000	60,000	120,000
光熱費	30,000	18,000	10,000	15,000
食費	50,000	42,000	28,000	30,000
衣類(4ヶ月)	15,000	12,000	6,000	5,000
教育・進学資金	20,000	40,000	60,000	10,000
娯楽・交際費	50,000	18,000	20,000	15,000
通信	25,000	18,000	10,000	15,000
交通(中)	10,000	25,000	20,000	5,000
医療・生命保険	20,000	21,000	10,000	5,000
貯金・その他	0	20,000	0	0
合計	¥340,000		¥170,000	

・住居費は賃貸と仮定して固定/家賃外家具、消耗品は年間総額を求めて12で割った数を仮定
・食費の中には食費だけでなく外食も含む
・衣類は季節的なものを除く/スーツや外出用のものはバックアップして取りこみ
・教育費・進学資金は奨学金や給付金、毎月や学費補助、生活費補助、奨学金補助
・娯楽・交際費として、交際費や贈答品などの費用も年間総額を求めて12で割った数を仮定
・交通で車を持つと仮定した場合はガソリンの費用も、娯楽や保険なども月単位で計算

17 万で子どもを育てるのは大変です。お金がないということは選択肢がなくなることだと実感しました。

そのあとに、高槻市富田地区の中学校のレインボープロジェクトという実践の紹介がありました。幸重さんもかかわったプロジェクトです。ぜひ観てほしいと思います。

※nhk 地域づくりアーカイブス

<http://www.nhk.or.jp/chiki/search/?kw=ひとりぼっちのいない町>

中学生たちが 3 つの映像を作成、カフェや夜の居場所などがあればいいのではと提案をします。

～親がいない家庭～つばさのストーリー

～ひとり親家庭～あやのストーリー

～共働きで親の帰りが遅い～あきらのストーリー

最後に、幸重さんが語った、貧困とはお金がないことが問題ではなく、「困」つまり、困った状態イコール孤立が問題なのだという言葉がとても印象に残りました。

文責 李(い)ぼんみ

2018年度ルール

やさしい気持ちでお互いを尊重 / オールOK / プリーズ / リラックスすれば理加が深まる / ズッパッとOK ずっとOK ずっと考えても思いつかない時はパスOK / 無理をせずみんな楽しく学びましょう / ほったらかしにしない / うそいつわりはなし / 類のない時に使用 / 守秘/

★★★★★ みんなの感想 ★★★★★

◆相対的子どもの貧困をしっかりと頭にいれて学校でみていかなければならないと思いました。子どもたち自身でみんなで考えていくことが必要だと思いました。

◆20人の高校生の声を聞いていて胸が痛くなりました。子どもたちが夢を描ける社会にしていきたいです。学校現場でも7人に1人が相対的貧困であることに気づかず(目をつむって)不要なものを買わせている実態があります。これをなくしていきたいです。(しみちゃん)

◆子どもたちが話し合い、自分たちで考えていくという取り組みはすごいなあと思いました。貧しくて困っている事を言えない大人と子どもがいることを、周りの人たちが気づくことが大切だと思います。何ができるか考えていきたいです。(M)

◆相対的貧困の状況でこそ親の愛情が大切だと思う。ネグレクトや虐待といった行動だけはゆるせない。もしそういう状況にある子どもたちがいることを察知できるのは学校ではないか。子ども食や学習支援といった福祉施策の重要性を改めて感じました。

◆子どもたち自身が動いていくことはとてもいい！と思いました。大人の私の役割を考えて行動していきます。

◆子どもの貧困については、必ずお金の問題になり支援には金銭的な支援が必要であり、私たちにはどんな援助ができるのか、福祉につなげるだけが支援だと考えていました。それしかできないと思っていましたが、「困っている状態→孤立すること」を支援するという方向性をいただきました。また、いかに子どもたちをまきこむか。まきこむことによって、子どもたちを交じらわせつなげていく→孤立させない仲間をつくること、なのだと。やはり仲間は大切なのだと実感しました。(Ke-Ko)

◆自分の子どもの頃のことも思い出したりしつつ。でも今の子どもたちはさらに“つきあい”にお金がかかる社会で生きているから、私たちの(70年代)困り感より、はるかにずっと困っているのだらうなと思いました。つらい。大学生にも「奨学金もあるし、塾に行けなくても、学校、図書館で勉強すればいい」という子がいます。単純に「今の自分」からお金だけがない状況を想像

するからだらうなと思います。そこをどう考えさせるかだと思いました。(Dai)

◆自分も中高生の時は親に仕事がなく、色々考えながら高校に行ったが、そういった思いを思いだし、思いを重ねながら学ぶことができました。子どもたち同士がつながる取り組みは、すべての子どもにとってよい影響をあたえるなと思いました。

◆中学生の作ったスライドの完成度の高さにびっくりしました。わたしも子どもの頃にこんな授業を受けていたら、こんなに遠回りせずに来られたのかなあ。こどもたちから自分の問題として考える機会をつくって、意識が変われば世の中も変わっていくかも…とちょっと希望を感じる今日のお話でした。(くもん)

◆相対的貧困という言葉が最近よく耳にします。ワークショップを通じちょっとだけですがイメージすることが出来ました。何かできることはないだろうかと考えさせられる内容でした。

◆「20人の高校生の声」が一番印象に残りました。将来に希望を持ってない高校生の本音が衝撃でした。

♪貧困を 考える地域 つくりましょう ♪ (中山寛規)

◆“ふるさとグングン”を見て、子どもの力で解決にむすびつけていく取り組みをしり、本日参加させていただきました。新しい解決の方法のヒントがあるように思います。

◆20人の高校生の声がリアルでした。自分の子どもがこんな気持ちだと思うと胸が痛かったです。そんなことを思う子が少しでも減るよう、講義の中にあつた中学生のように、ひとりひとりが考えなければと思います。

♪へらしたい 死にたいという 子どもたち ♪

連絡

もし参加者の皆さんで宣伝したいチラシ等ありましたら、ご持参ください。おながやすく時間なのでおにぎり、パンなどの軽食はOKです。毎回ふりかえり用紙をくばります。後でメールファックスでもいいので送ってください。お願いします。通信に反映させたいと思います。(公開だめなものはオープンにしません)

写真を撮影しますが、OYA OYA通信、八尾市人権協会のホームページなどで使用する場合があります。なるべく個人が特定しにくいものと考えていますが、困るとい方は事務局にもうしつけください。

9時には終了予定ですが、どうしても延長になる場合があります。急がれる方は先に退席してください。じんけん楽習塾が終わってから、簡単な懇親会を毎回予定しています。

終了時に声をかけますので、参加可能な方は会場に残ってください。お店等お知らせします。